瀬谷中だより　６月号

令和元年６月２８日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着　〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成　〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成　〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成　〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
副校長　村上　直幸
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

持続可能な社会の担い手に

副校長　村上　直幸

先日、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の校内選考会の様子をうかがいに放課後の教室を訪れました。

これは「よこはま子ども国際平和プログラム」の一環で、日本の平和や国際平和に向けて自分の考えを言葉で表現することで、日本の平和や国際平和に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとする姿勢を育成するという趣旨で、毎年開催されているものです。校内選考、区内選考を経て各区代表に選ばれると、一年間「よこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員」に委嘱され、ユニセフ協会への活動協力や国際平和にかかわる学習会を実施したりします。さらに市長賞受賞者は、１０月に「よこはま子どもピースメッセンジャー」としてニューヨーク派遣（国連本部、ユニセフ本部訪問）に参加します。

本校の校内選考会には各学年から選ばれた１年生～３年生の４人の生徒が参加しました。審査に携わる先生方を前に、ＳＤＧｓに基づく１７の視点の中からそれぞれの考えや具体的な経験・体験をもとにして各自が自分の意見をしっかりと主張していました。ある生徒は海の生態系について語ってくれました。また、ある生徒は我々にとって身近な「水」に焦点を当てていました。異常気象を切り口に我が町の環境保全について語る生徒や自分の夢に照らして１０年後の学校について思いを巡らす生徒。それぞれがこれから生き抜いていく未来の社会について、しっかり自分事として展望し、そのために何ができるのかを自分の言葉で主張するその姿に、持続可能な社会の担い手として活躍する未来の姿が重なって見えました。

身の回りで起こる出来事に「当事者意識を持つ」ことについて、奇しくも朝会で全校生徒にお話しさせてもらったばかりでした。現在の瀬谷中生が２０代半ばになる頃にＳＤＧｓや横浜教育ビジョンが見据える２０３０年を迎えます。スピーチした４人には直接お話ししましたが、その時代を生きる者として、瀬谷中生一人ひとりが今起きていることに当事者意識を持ち、実践を通してグローバルな視野を身につけていくことを願ってやみません。

校外学習行事を終えて

１年生　自然教室実行委員長　　１年１組　北村　勇海さん

今年の自然教室は、みんなが協力して楽しい自然教室になったと思います。山登りではとっても疲れてヘトヘトだったけれど、登り切った時の達成感と景色はとてもきれいで疲れがふきとびました。また、カレーライス作りでは、どの班も協力しておいしいカレーが作れました。つらかった山登りもとても楽しかったカレーライス作りも、とてもよい経験になりました。この自然教室できた絆を大切位にして、これからの３年間をみんなで頑張っていきたいと思います。

２年生　鎌倉遠足実行委員長　　２年６組　吉澤　瑚葉さん

鎌倉遠足では、各クラスが班ごとに分かれて行動しました。２学年全員は必ず鶴岡八幡宮か高徳院（大仏）に行きました。自分たちで決めた場所に行き、色々な事を学びました。どんな時にも臨機応変に動けていました。行き帰りの電車では、席を譲ったりし、静かにすることができました。今回の鎌倉遠足では、２学年全員が「瀬谷中の生徒」として自覚ができていたので良かったです。来年の修学旅行につながったと思います。

３年生　修学旅行実行委員長　　３年９組　田母神　皐さん

私たち３学年は、今回の修学旅行で１日目から２日目の昼までは、滋賀県の甲賀市と日野町に分かれて民泊体験をしました。畑仕事や料理をしたり、普段は見られない景色や生き物を見たりと、滋賀県の民泊体験でないとできない貴重な体験ができました。２日目と３日目のクラス別コース見学と京都班別行動では、奈良県や京都府の歴史や文化に触れると共に班員と協力し、時間配分を考えて行動できました。今回得た経験や見つけた課題を今後の生活の中で活かしていきたいです。